青山教会会報

「見ないで信じる幸いを」

ヨハネによる福音書二〇章二四～二九節

牧師　増田将平

「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない」

キリストの弟子トマスの言葉です。主イエスと弟子たちの旅が終わりに近づいた頃、弟子たちは主イエスが死を覚悟していることを知ります。するとトマスは言います。「俺たちもイエス先生と一緒に死のうではないか」

やがて主イエスの予告通り、ユダの裏切りによって主イエスが捕らえられると、弟子たちはみんなイエスを見捨てて逃げ去ってしまいます。トマスも例外ではありませんでした。トマスのあだ名は「ディディモ」。「双子」という意味です。ある人はこのあだ名は彼の内面を表しているのだと説明します。心の中に「この人のためなら、死んでもいい」と断言する私がいる。ところが、いざとなると手のひらを返すように見捨てて逃げ去ってしまうのです。

そんなトマスがある時他の弟子たちと一緒にいました。弟子たちは家のすべての戸に鍵をかけていました。異様な光景です。主イエスが十字架で殺されたので次は自分かもしれないという死の恐れがありました。彼らにはもう一つの恐れがありました。師匠である主イエスが十字架につけられ、最も苦しんでいた時に弟子たちは逃げ去って見殺しにしました。自分のずるさと汚さを思い知りました。それなのに本当に主イエスが生き返ったとしたら、これは最悪のシナリオであり、これほど恐ろしいことはありません。

壁に囲まれた部屋の中に閉じこもっている男たち。目に見える壁だけではなく、目に見えない壁が取り囲んでいました。自分ではどうすることもできない「過去」という壁。神を信じられず、人を、自分をも信じられない「疑い」という壁。そこから生じる「不安」「恐れ」という壁。これらの壁を立てたのは自分なのです。多くの壁に囲まれた、「絶望」という名の部屋に閉じ込められていました。

ところがすべての戸に鍵がかかっていたのに、主イエスが来て彼らの真ん中に立って言われました。

「あなたがたに平和があるように」

「あるように」とは「ある」ということです。

「今、あなたがたと私の間には平和がある。だから、もう何も恐れることはない」。弟子たちの心には、平和がありませんでした。同じ部屋に一緒にいてもお互い和むことができませんでした。

そして主イエスはトマスのところに近づき、トマスの言葉通りに両手とわきの傷を示されました。トマスを裁くためではありません。ご自身のトマスへの愛を信じてほしいからです。

トマスが固執した「私の目、私の指、私の手」とは、トマスの理性を表していると言えるでしょう。科学者であり、キリスト者であったパスカルは「理性」の重要性を述べながら、理性の限界についてこう言います。「理性の最後の一歩は自分を超えるものが無限にあることを認め

ることだ。理性はこの点を知るところまでたどりつかなければ、しょせん、弱いものにすぎない」

これまでトマスは自分の目、自分の手によって確かめられることこそが真実であると考えていました。けれどもトマスは復活した主イエスに出会い、示された傷跡を見て、この世界で何が一番確かであるかがわかったのです。それは復活した主イエスの愛です。自ら進んで傷を示すイエスの姿から、聞こえてきた言葉がありました。

「私のこの傷ゆえに、私の十字架の死のゆえに、あなたは赦されている」

トマスは言いました。「わたしの主、わたしの神よ」。主イエスの傷跡はトマスへの、そして、私どもへの愛のしるしです。復活したキリストと出会うと、信じられなかった人が信じられるようになるのです。

『パウロ』という映画があります。パウロという人は、かつて教会を迫害していましたが復活したキリストと出会い、キリストの使徒・伝道者となった人です。私はこの映画の初回上演に行きました。上映後にはトークショーがあり、松任谷正隆氏が登壇しました。彼は自分がクリスチャンではないことを述べた上で、自分はこの映画に深く感動した。その理由はこの映画には「リアリティー」があるからだと言いました。つまり、これは聖書の中だけの話ではない。今もこのように信じ、生きている人が自分の周りにいるというリアリティーが私を感動させるのだというのです。

復活したキリストと出会うことができる場所があります。トマスがキリストと出会ったのは一人の時ではありませんでした。仲間たちと一緒にいたときでした。これが教会です。教会はトマスのように、目で見てはいないけれども信じている人々、それでいながら喜びを与えられて生きている人々の集まりです。教会に通っていても、時に疑い、恐れ、自分の弱さに失望する日もあります。教会はトマスたちの集まりです。私もトマスのような人間です。

トマスはその後、インドに行き、伝道したと言われています。トマスだけではありません。続きがあるのです。この国にはキリストのために死んだキリシタンが大勢います。復活のキリストに出会った多くの人々が海を越えてこの国に来ました。そして学校を建て、教会を建てました。

パスカルが復活について語った言葉が『パンセ』に収録されていてこのようなことが記されています。

「生前イエスが弟子たちと共にいた時は、イエス自身が彼らの支えとなった。しかし、イエスが十字架につけられた後は、復活したイエスが彼らの前に現れたのでなければ、弟子たちをあのように動かせるだけの人がいただろうか」

今も、手と脇腹に傷を持ったお方が教会の真ん中に立っているのです。このお方が言われます。

「あなたがたに平和があるように」

そして言われます。

「見ないのに信じる人は、幸いである」

これは条件ではありません。宣言です。それも祝福の宣言なのです。

「あなたも見ないで信じることができる」

なぜなら、主イエス・キリストがあなたのところにも来てくださっているからです。

（六月四日青山学院大学礼拝説教より）

— ご案内 —

召天者記念礼拝
9月8日10:30

信仰の先達を思い、ご一緒に礼拝を守りましょう。